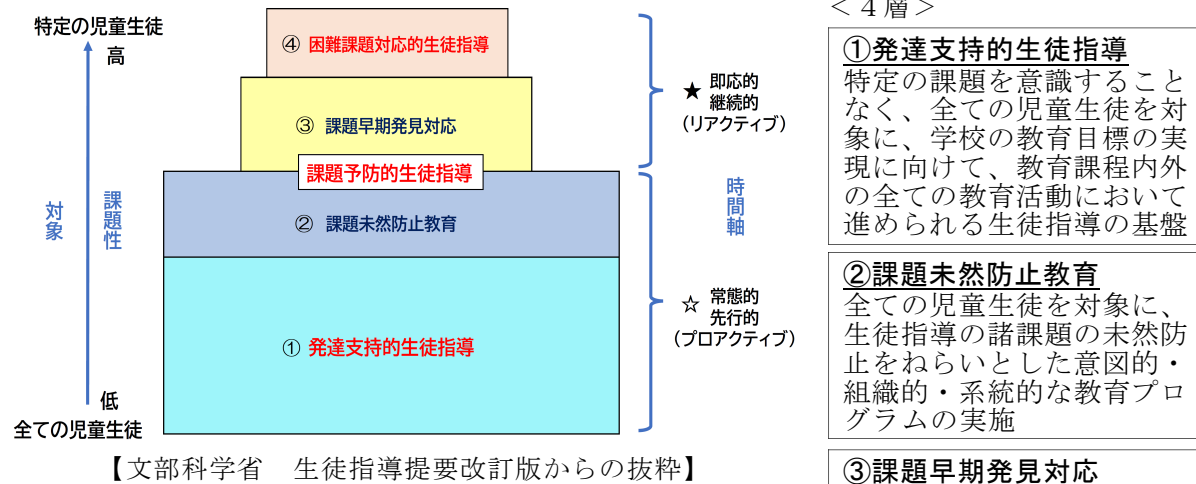


推進資料 3

校内生徒指導体制を「生徒指導の重層的支援構造」から考える
～常態的・先行的生徒指導を重視した取組の充実について～

令和4年12月に改訂された生徒指導提要では、2軸（☆常態的・先行的、★即応的・継続的）、3類（発達支持的生徒指導、課題予防的生徒指導、困難課題対応的生徒指導）、4層に分けて生徒指導を進める考え方が整理されました。自校の生徒指導計画や校内生徒指導体制が、常態的・先行的生徒指導を重視した内容で構成されているか検討し、共通実践することが大切です。



【文部科学省 生徒指導提要改訂版からの抜粋】

Point

- 発達支持的生徒指導や課題予防的生徒指導（課題未然防止教育）の在り方を改善していくことが、生徒指導上の諸課題の未然防止や再発防止につながり、課題早期発見対応や困難課題対応的生徒指導を広い視点から捉え直すことが、発達支持的生徒指導につながるという円環的な関係にあります。
- これからの生徒指導では、特に常態的・先行的（プロアクティブ）な生徒指導の創意工夫が一層必要になります。

①発達支持的生徒指導

児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話及び授業や行事等を通したバランスのよい集団指導と個別指導が大切です。

発達支持的生徒指導の例：魅力あるよりよい学校・学級づくり

教職員が、児童生徒の「居場所づくり」を進めることで

児童生徒一人一人が安心して学校生活を送ることができ、自尊心を高め充実感を得ることが期待できます。

児童生徒が、主体的に取り組む活動を通して「絆づくり」を進めることで

児童生徒同士の多様な関わりの中で自己有用感や社会性が生まれ仲間を支援できるよりよい集団に成長することが期待できます。

②課題未然防止教育

いじめ防止教育、自殺予防教育（SOSの出し方教育）、薬物乱用防止教育、情報モラル教育、非行防止教室等が該当します。生徒指導部を中心に、スクールカウンセラー等の協力も得ながら年間指導計画に位置付け、実践することが重要です。

課題未然防止教育の例：メディア利用のルールづくり、話し合い、調査、呼び掛け等

児童会や生徒会を利用した自発的、自治的な取組を進め、家庭でのルールづくりを啓発することで

メディア依存による昼夜逆転や体調不良、食欲不振、不安、無気力などの危険性について児童生徒自身が気付く、考え、実行する動機付けになることが期待できます。

どのような方法で情報モラル教育を実施していますか。(複数回答)	小学校(%)				中学校(%)			
	鹿角	大北	龍山	北管内	鹿角	大北	龍山	北管内
①教科等の授業での指導	57.1	96.3	100.0	91.8	100.0	92.9	63.6	83.3
②学年集会や全校集会での指導	57.1	51.9	46.7	51.0	80.0	92.9	81.8	86.7
③外部講師を招へいしての指導	71.4	51.9	40.0	51.0	80.0	71.4	72.7	73.3
④児童会・生徒会による主体的なルールづくり、話し合い、調査、呼び掛け等	14.3	33.3	0.0	20.4	40.0	64.3	9.1	40.0
⑤その他(生徒指導便り、パンフレットの発行など)	14.3	7.4	0.0	6.1	20.0	0.0	0.0	3.3

令和4年度スマートフォン等、インターネット利用実態調査より

※北教育事務所管内では、④児童会・生徒会による主体的な取組は、徐々に進んできていますが、十分とはいえない状況です。